

第6学年道徳科学習指導案（2時間扱い）

日 時 令和4年6月11日（土）
第3校時
対 象 第6学年1組 38名
学校名 世田谷区立中里小学校
授業者 松本 美雪
会 場 6年1組教室

- 1 主題名 明るく生きる A 正直・誠実
- 2 教材名 「手品師」（出典「小学道徳 生きる力6」日本文教出版）

3 主題設定の理由（指導観）

（1）ねらいとする道徳的価値について

誠実とは、真心であり、誠の行いである。集団生活の中で誠実に明るく行動し合うことは、楽しく快適に暮らすために大切なことである。自分の気持ちに偽りのないように過ごしたり、誰に対しても真面目に、真心をもって接したりしようとする心情は大切である。

過ちや失敗は誰にでも起こり得ることである。そのような時、自分を守るために嘘を言ったり、ごまかしたりすることは、あくまでも一時的なその場しのぎにすぎず、真の解決にはつながらない。このことによって、他者の信頼を失うばかりか、自分自身の中にも後悔の念が生じてしまう。それらを乗り越えようとするのが正直な心であり、自分自身に対する真面目さであり、伸び伸びと過ごそうとする心のすがすがしい明るさである。自分が正しいと判断したことを責任をもって実行していくことが、自分自身にとって誠実な生き方になるということを考えさせ、児童が誠実に行動し、明るい生活をしようとする心情を育てたい。

（2）児童の実態について

本学級の児童は、4月から最高学年としての行動を意識している。下級生を意識した態度で学校生活を送ろうとしている児童がいる反面、不誠実な言動をとったり、自己防衛や自己顕示の欲求から、他人に対して嘘をついたり、ごまかしたりする児童も見られる。よくないことと知りつつも、自分の意に反して周囲に流されたり、傍観者として過ごしたりしてしまうことがある。それは、決して心地よいものではなく、後ろめたさから、誇りや自信を失うことにもつながる。

本授業では、手品師の生き方から、自分自身に対する「誠実さ」があることに気付かせ、誠実に行動し、生きていくことの大切さについて考えさせていきたい。

（3）教材について

腕はよいが売れない手品師が、偶然に出会った貧しい男の子と翌日も会う約束をするが、友人からの大劇場出演の依頼を受ける。「自分の夢の実現」と「男の子との約束」の間で葛藤し、苦悩する手品師は、最終的に友人の誘いを断り、男の子の約束を守るという内容である。

手品師の心の葛藤について見つけ、手品師が自分の心とどう向き合い、どんなことを考えたのかを児童が考えることによって、「誠実さ」について捉えさせていきたい。そこには、男の子を思う「誠実さ」だけでなく、自分自身の生き方に対する「誠実さ」があることに気付かせていく。そして、男の子との約束を選んだ手品師が、後悔していないすがすがしい気持ちでいることに気付かせ、誠実に行動し、生きていくことの大切さについて考えさせたい。

教材資料分析表

場面の概要	手品師の内面	第1時の発問
① あまり売れない手品師	<ul style="list-style-type: none"> ・この貧しい暮らしから何とか抜け出したい。 ・ぼくの手品を、もっといろいろな人に見てもらえたら。 	
② 「大きな劇場で、はなやかに手品をやりたいなあ。」	<ul style="list-style-type: none"> ・技には自信があるんだよ。 ・たくさんの観客が見ている前で、歓声をあびながら手品をやりたいな。 ・今のぼくには、かないっこない。 	
③ 大劇場に立てる日の来るのを願って、うでをみがいっていました。	<ul style="list-style-type: none"> ・いつかぼくの夢がかなう日がくるかもしれない。 ・その日に向けて、練習を続けよう。 ・技のレベルを上げて、より多くの観客に感動を与えるような手品を見せたい。 	
④ 小さな男の子に手品師が声をかける。	<ul style="list-style-type: none"> ・どうしたんだろう。 ・何があったのかな。 ・こんなところで一人にいるなんて心配だ。 	
⑤ お父さんが死んだあと、お母さんが働きに出て、ずっと帰ってこない。	<ul style="list-style-type: none"> ・それはとても悲しい思いをしたんだね。 ・さびしく一人で過ごす日々が続いているんだね。 ・元気を出させたいな。 	
⑥ 手品師が男の子に手品を見せる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼくの手品を見て、少しでも元気を出してもらえたら嬉しい。 ・今のぼくにできることは、これくらいだ。 	
⑦ 男の子の顔は、明るさを取りもどす。「明日も来てくれる。」	<ul style="list-style-type: none"> ・男の子が元気になってくれてよかった。 ・ぼくの手品が、人の役に立つこともあるんだな。 	
⑧ 「ああ、来るともさ。」	<ul style="list-style-type: none"> ・男の子が元気になってくれるなら、いくらでも来るよ。 ・もちろん来るさ。 	
⑨ どうせひまな体、あしたも来てやろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・明日だって、大してやることもないし。 ・手品の練習ついでに、男の子が喜ぶなら明日も来るさ。 	
⑩ 仲のよい友人から、いい話があると電話がくる。	<ul style="list-style-type: none"> ・いったい、どうしたんだ。 ・いい話ってなんだろう。 	
⑪ 大劇場に出られるチャンスがくる。	<ul style="list-style-type: none"> ・大劇場にだって！？ ・ぼくがずっと待ち望んでいたことだ。 ・絶対に出たい。 	
⑫ 二度とないチャンス。もうチャンスは来ないかもしれない。	<ul style="list-style-type: none"> ・二度とないチャンスなら、なおさら出たい。 ・必ずこの話に乗って、大劇場の舞台に立って、ぼくの夢をかなえるんだ。 	

<p>⑬ 一日延ばすわけにはいかない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・推薦されたことはとても嬉しい。 ・何とか一日でもずらせられれば、男の子との約束も守れるし、ぼくの夢もかなうのに。 ・どうしたらいいんだ。 	
<p>⑭ 男の子との約束と大劇場との間で迷いに迷う。</p>	<p>A (男の子との約束を守る)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約束をやぶったら男の子が悲しむ。 ・約束したのが先だ。 ・男の子が待っている。 ・約束は守らなければ。 <p>B (大劇場に行く)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢をかなえたい。 ・このチャンスを逃せない。 ・このままでは生活していくことができない。 ・二度とないチャンスをむだにしたくない。 	<p>迷いに迷っているときの手品師は、どんな自問自答を繰り返していたでしょう。 (基本発問①: 役割演技)</p>
<p>⑮ 手品師はきっぱりと言う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・よし、決めたぞ。 ・友人には申し訳ないけれども。 ・ぼくの思いはかたい。 	
<p>⑯ 「せっかくだけど、あしたは行けない。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼくのことを待っている男の子がいる。 ・あの男の子は、ぼくの大事な観客の一人だ。 ・男の子を裏切ることにはできない。 	
<p>⑰ 「<u>ぼくにとっては大切な約束なんだ。</u>」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・君の親切には本当に申し訳ないが。 ・何よりも大切な約束があるんだ。 ・守らなければならない約束なんだ。 ・男の子との約束を破りたくない。 	<p>手品師の「ぼくにとっては大切な約束なんだ。」という言葉にはどんな思いが込められていたのでしょうか。 (中心発問)</p>
<p>⑱ 手品師が、<u>すばらしい</u>手品をえんじていました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この男の子が喜んでくれることがとても嬉しい。 ・チャンスはきっとまたある。 ・男の子との約束を選んでよかった。 	<p>手品師はどんな気持ちで、次々とすばらしい手品を演じていたでしょう。(基本発問②)</p>

4 学習指導計画

(1) (2時間扱いの) 第1時のねらい

どのような状況であっても、常に誠実に行動し、明るい気持ちで生活をしようとする心情を育てる。

(2) 第1時の学習指導過程

	主な学習活動と予想される児童の反応	・指導上の留意点 ◆評価
導入	1 どちらか一方を選ばなければならなくて本当に迷ったとき、どんな気持ちでしたか。	・普段の生活をふり返り、ねらいとする道徳的価値への問題意識を高める。
展開の 前段	2 教材「手品師」を読み、手品師の気持ちや考えについて、話し合う。 ○ 迷いに迷っているときの手品師を役割演技で表してみましよう。 ・ どうしよう、どうしたらいいんだ。 ・ 大劇場にも立ちたい、でも約束も守りたい。 ・ 約束をやぶったら男の子が悲しむ。 ・ 男の子が待っている。 ・ 今後二度とないチャンスをむだにしているのだろうか。 ・ 自分の夢をかなえたい。 ◎ 手品師の「ぼくにとっては大切な約束なんだ。」という言葉には、どんな思いが込められていたのでしょうか。 ・ 君の親切には本当に申し訳ないが。 ・ 何よりも大切な約束があるんだ。 ・ 守らなければならない約束なんだ。 ○ 次々とすばらしい手品を演じる手品師は、どんな気持ちでしょう。 ・ この男の子が喜んでくれることがとても嬉しい。 ・ チャンスはきっとまたある。 ・ 男の子との約束を選んでよかった。	・ 手品師の気持ちを考えながら読むように指示する。 ・ 「A 大劇場への夢を叶えたい手品師」と「B 男の子との約束を守らねばと思う手品師」の葛藤を役割演技を通して考えさせる。 ・ AとBの立場から、交互に「でも」を付けて発言させ、それを続けさせる。 ・ 途中で役割交代を行う。 ・ 「(君にとっては大切じゃないかもしれないけど) <u>ぼくにとっては大切なんだ</u> 」という手品師の気持ちに気付かせる ・ 「すばらしい手品」という言葉を手掛かりにして考えさせる。 ・ 夢は変わらずもち続けながら、男の子の前で演技する手品師の、晴れ晴れとした気持ちを押さえる。 ◆ 男の子を思う「誠実さ」だけではなく、自分自身の生き方に対する「誠実さ」に気付いているか。
展開の 後段	3 手品師が大切にしたい誠実な生き方と自分自身について考える。 ・ どうしたらよいかと迷ったけれど、「そうしたほうがよい」と決断して行動したことや、行動できなかったことについて自己を見つめる。	・ 他者だけでなく、自分の心に対しても誠実に生きることについて、考えさせる。
終末	4 教師の説話を聞く。	・ 自分の心に誠実に行動することが、明るく生きることにつながった教師の体験談を話す。

(3) (2時間扱いの) 第2時のねらい

良心に誠実であろうとすることについて考え、明るい気持ちで生きていこうという心情を高める。

(4) 第2時の学習指導過程

	主な学習活動と予想される児童の反応	・指導上の留意点 ◆評価
導入	1 前時の学習をふり返る。 ・男の子も手品師も約束を守るパターン(A)と、男の子は来るが、手品師が大劇場を選び、約束を守らないパターン(B)で考えてきたことを、図式化して確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「大劇場」をとるか、「男の子との約束」をとるか、手品師には大きな葛藤があったことを確認する。 ・男の子との約束は守られ、男の子にすばらしい手品を演じた手品師の気持ちをふり返る。
展開の 前段	2 「手品師」の物語には、他のパターンがなかったかを考える。 ・手品師は来るけど、男の子は来ない。(C) ・二人とも来ない。(D) ○ 手品師が自分の夢を叶えるチャンスを捨ててまで男の子との約束を守ったが、その場所に男の子が現れなかった場合、手品師は、自分の昨日の決断をどう思うだろう。 ・どうして男の子がいないんだ。 ・せっかく来たのに。 ・これなら、大劇場に行けばよかった。 ◎ もし手品師が「こんなことになるなら男の子との約束なんか守らなければよかった」と思ったら、手品師は、これからの人生を自分に誇りをもって生きていけるだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・図式化して捉えさせる。 ・パターンDは、台風などの自然災害を想定すれば十分にあり得ることを確認する。 ・教科書には書かれていない、パターンCの状況について考えさせる。 ・男の子の前で手品を演じている時、晴れ晴れとしたすがすがしい気持ちだったことをふり返る。 ・相手を許すという「思いやり」の心が生じていることに気付かせる。 ・話し合いをした後で、ワークシートに記入させる。 ・考えを自由に交流させる。 ・発言を強要したり、立場を明確にさせたりしない。 ◆自分自身の生き方に対する「誠実さ」について、理解を深めているか。
展開の 後段	4 自分に誇りを持ち、自分の人生を明るく生きていくために、大切なことは何だろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・他者だけでなく、自分の心に対しても誠実に生きることについて考えさせる。
終末	5 学習のふり返りを書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・2時間の学習を終えて、思ったこと、考えたことを書かせる。

5 板書計画

第1時

手品師

迷いに迷っているときの手品師は、どんな気持ちでしょう。

大劇場への夢

男の子との約束

手品師の「ぼくにとっては大切な約束なんだ。」という言葉には、どんな思いが込められていたのでしょうか。

次々とすばらしい手品を演じる手品師は、どんな気持ちでしょう。

晴れ晴れとした気持ちすがすがしい気持ち

- ・ 今後二度とないチャンスをむだにしたいのだろうか。
- ・ 自分の夢をかなえたい。
- ・ 友達が推せんしてくれたのに、約束をやぶったら男の子が悲しむ。
- ・ 男の子が待っている。
- ・ 約束は守らなければ。

- ・ 君の親切には本当に申し訳ないが。
- ・ 何よりも大切な約束があるんだ。
- ・ 守らなければならぬ約束なんだ。

- ・ この男の子が喜んでくれることがとても嬉しい。
- ・ チャンスはきつとまたある。

第2時 (本時)

手品師

男の子と約束したが、男の子が来なかった

無断キャンセル

男の子

手品師

約束の場所に男の子が現れなかった場合、手品師は、自分の昨日の決断をどう思うだろう。

自分に誇りをもつために

(○…来る ×…来ない)

	男の子	手品師
A	○	○
B	×	○
C	○	×
D	×	×

- ・ どうして男の子がいないんだ。
- ・ 大劇場のチャンス棄てて、せっかく来たのに。
- ・ これなら、友人の誘いを断らなければよかった。

もし手品師が「こんなことになるなら男の子との約束なんか守らなければよかった」と思ったなら、手品師は今後、自分に誇りをもって生きていけるだろうか。